

こんしゅう やす
今週のことば「休む」

せいし ふくいんし
《聖書》マタイによる福音書 11:25-30

ろう どう やす
労働と休み

せいし あんそくび おし ち たがや
聖書における安息日の教えは、地を耕

き せつ か い とき いっしゅうかん
す季節にも刈り入れ時にも、一週間のう

いちにち やす ひ しゅ ささ
ちの一日を休みの日として主のために捧

し ぜん
げるといふものです。自然のいとなみの

なか ろうどう やす とうぜんひつよう
中で、労働と休みは当然必要なものです。

ひと はたら た
人は働かなければ食べていけませんが、

かいてき せいかつ もと はたら す
しかし、より快適な生活を求めて働き過

てきとう やす
ぎるのはよくありません。適当な休みが

あら きも も はたら
あってこそ、新たな気持ちを持って働く

い よく で
意欲が出てくるものです。

やす からだ やす じ
休むのは、体を休めるだけでなく、自

ぶん せいかつ ふ かえ
分の生活を振り返るためでもあります。

じ ぶん いま せいかつ げんじょう
自分の今の生活はどうか。現状をど

み いま なに
う見るのか。今やるべきことは何か。ど

げんじょう か
うすれば、現状を変えることができるの

つか す なに かんが
か。疲れ過ぎると、何も考えられなくな

しっぱい
り、やることなすこと失敗ばかりという

い み はたら す
こととなります。そういう意味で、働き過

たいせつ つね も
ぎないことが大切です。常にゆとりを持

せいかつ ひと ひつよう
った生活が人に必要なのです。

かい ほう
解放のしるし

しんめいき
申命記によると、「あなたはかつてエ

くに どれい
ジプトの国で奴隷であったが、あなたの

かみ しゅ ちから み て みうで の
神、主が力ある御手と御腕を伸ばしてあ

みちび だ おも お
なたを導き出されたことを思い起こさね

かみ
ばならない。そのために、あなたの神、

しゅ あんそくび まも めい
主は安息日を守るよう命じられたのであ

やす かいほう
る」(5:15)と、休みには解放のしるしが

しめ
あることを示しています。

ひと やす じ ぶん かいほう
人は休むことにより、自分が解放され

じ ゆう み い しき
て自由の身であることを意識するのです。

やす ひと そくばく
そのためにも、休みは人から束縛されず

じ ゆう と
に自由に取れるものでなければなりません

やす たん かつどう ていし
ん。休みは単に活動の停止ではありません

あら かつどう みなもと
ん。新たな活動の源なのです。

ねんかんだい しゅじつ ねん たきのしゅうざぶろう
年間第14主日A年(瀧野正三郎)